

八王子市市史編さん室だより

稲 荷 山 通 信 第 8 号

発行日:2011年(平成23年)10月14日

発行者:八王子市総合政策部市史編さん室

〒193-0943 八王子市寺田町1455-3
TEL 042(666)1511 FAX 042(666)1512

第2期市史編さん審議会が始まりました

—市史刊行計画の一部変更を検討—

市史編さん室では、市史編さん事業の適正な推進を図ることを目的に、市長の附属機関として「市史編さん審議会」を設置しています。平成20年6月25日に設置した第1期の審議会は、市長からの2回の諮問について合計8回の会議を開いて審議を行い、それぞれの諮問に対する答申を市長に提出し、3年間の任期を終了しました。そして、今年の6月25日から、新たな委員構成で第2期の審議会がスタートしました。

改選後最初の会議となった8月17日の審議会では、黒須市長から委員の一人一人に委嘱状を手渡すとともに、「東日本大震災という未曾有の災害を受け、改めてわが町の歴史や記録を市民共有の財産として後世に残していく本事業の重要性を認識した。多摩地区の中心として栄えてきた八王子にふさわしい市史を編さんするために、委員からの率直な意見を頂戴したい」とのあいさつがありました。



また早速、審議会に対して「八王子市史刊行計画の一部変更について」の諮問が行われました。審議会では、この諮問について審議し、今年中に答申を提出する予定です。

なお、第2期審議会の会長、副会長には、松尾正人会長、相原悦夫副会長がそれぞれ再任されました。第2期審議会の委員構成については、下記の名簿をご覧ください。

市史編さん審議会委員名簿

任期:平成23年6月25日～平成26年6月24日

職名	氏名	選出区分	所属等
会長	松尾 正人	学識経験者	中央大学文学部教授
副会長	相原 悦夫	八王子市文化財保護審議会委員	八王子市文化財保護審議会会長
委員	池上 裕子	学識経験者	成蹊大学文学部教授
委員	内田 純功	商工業関連団体の代表	八王子商工会議所専務理事
委員	小此木 正貴	公募市民	
委員	沼 謙吉	学識経験者	津久井町史編集委員会委員長
委員	平塚 美臣	市民団体の代表	八王子市町会自治会中部連合会会長・三崎町町会長
委員	前田 成東	学識経験者	東海大学政治経済学部教授
委員	光石 知恵子	学識経験者	古文書を探る会副会長
委員	渡邊 秀雄	公募市民	

Contents

第2期市史編さん審議会が始まりました	1	チャレンジインターンシップ体験記 世良知咲	4
市史編さん審議会委員名簿	1	受贈図書・資料	5
事業進展を踏まえた新たな方策を	2	歴史の窓⑧ 水と人々の暮らし	
市民講座「中世の八王子を語る」を開催します	3	～絵図から読み解く～ 佐藤千枝	6
職員の異動	3		

事業進展を踏まえた新たな方策を —市史編さん審議会が答申を提出—



平成23年6月22日に、市史編さん審議会からの答申「今後の市史編さん事業推進の方策について」が市長に提出されました。この答申は、昨年12月20日の市長からの諮問にこたえたもので、10年間を予定している市史編さん事業が、ちょうど半ばとなる5年目を迎えるにあたり、今後の事業の進め方について意見をまとめたものです。

答申は、①市史の刊行計画、②市民に開かれた事業とするための方策、③今後の調査研究の進め方の3点にまとめられており、概要は以下のとおりです。今後、市史編さん室では、この答申の内容を踏まえて市史編さん事業の推進を図っていきます。

答申「今後の八王子市史編さん事業推進の方策について」(概要)

はじめに

市が市制施行 100 周年の記念事業として市史編さん事業に着手して早くも5年目を迎えた。この間、市史編集専門部会による調査が進み、その成果の一部を市民に伝える『八王子市史研究』も創刊され、市史編さんに対する市民の期待は高まっている。そのような中、市長から諮問された内容を審議し、以下の3点について意見をまとめた。

1. 事業進捗を踏まえた刊行計画の修正について

多摩地区の中心として栄えてきた八王子市の市制施行 100 周年記念事業にふさわしい水準を備えた市史を編さんするため、各専門部会での作業実態を踏まえて着実に編集作業を進めることができるよう、平成 28 年度までの各編の刊行年度の一部を修正することが妥当と考える。

2. より市民に開かれた市史編さん事業を推進するために

今後も市史編さん事業への幅広い市民の参加、市民協働の拡大を図ることを期待する。また、事業の成果として、市民が手に取りやすく理解しやすい刊行物の刊行が重要である。

本編、資料編の刊行後、年表編や総索引、市民が親しみやすいダイジェスト版の作成を期待する。

3. 今後の資料調査・研究の進め方について

市民共有の貴重な財産である原資料の保存と適切な管理が公共的に行われることが重要であり、事業の成果や収集した資料が事業終了後も適切に保存・管理されることを念頭に置いて、今後の資料調査・研究を進めるべきである。

むすびにかえて

今回の市史編さん事業は、八王子の豊かな生活文化の再発見を促し、次の 100 年へと引き継いでいくうえで極めて重要な事業であり、市を挙げて取り組まれることを願う。

答申の全文、審議会の会議録は、市史編さん室ホームページ

(<http://www.city.hachioji.tokyo.jp/seisaku/13570/index.html>) でご覧いただけます。

市民講座「中世の八王子を語る」を開催します

市史編さん室では、広く市民の皆さまに市史編さん事業について知っていただき、八王子の歴史に対する理解を深めていただくきっかけとなることを目的として、生涯学習センターとの共催で市民講座を開催しています。本年度は「中世の八王子を語る～横山党から北条氏照まで～」と題し、下記のテーマで鎌倉・室町・戦国時代の八王子を学びます。皆さま奮ってご参加ください。

日 程：平成23年11月11・18・25日、12月2日
全4回（毎週金曜日）

時 間：午後6時30分～8時30分

会 場：生涯学習センター クリエイトホール11階
視聴覚室

受 講 料：無料

対 象：どなたでも

定 員：72名（応募多数の場合抽選）

申込方法：往復はがきに「中世」と住所・氏名・電話番号、
返信面の宛名を書いて、
〒193-0943 八王子市寺田町1455-3
八王子市市史編さん室まで（10月31日必着）



昨年度開催された市民講座の様子

日程	テーマ	内容	講師
第1回 11月11日	横山党と ふなきだのしょう 船木田荘	平安～鎌倉時代に八王子市域に勢力を持っていた横山党等の武士と、同時期の船木田荘について現地調査の成果を生かして考えます。	市史編集専門部会中世部会副会長 明星大学人文学部教授 小林 一岳 氏
第2回 11月18日	室町時代の 長井氏と大石氏	梶田郷を拠点とした長井氏と浄福寺城を拠点とした大石氏を中心として、室町時代に八王子市域に勢力を持っていた武家領主について、最近の研究成果を参照しつつ考えます。	市史編集専門部会中世部会委員 都立小金井工業高校非常勤講師 徳永 裕之 氏
第3回 11月25日	北条氏照の 滝山領支配	武蔵大石氏の領域支配は戦国大名北条氏の勢力拡大の中で終焉を迎え、北条氏照が滝山城に入城します。ここでは北条氏照の滝山領支配の開始を考えたいと思います。	市史編集専門部会中世部会委員 都立東大和南高校教諭 加藤 哲 氏
第4回 12月2日	北条領国の拡大 と 北条氏照の役割	元亀年間(1570～1572)から天正18(1590)年の滅亡までの氏照の活動をみていきます。戦争における役割のほか、織田信長への使者派遣、八王子城と城下町の築造などにも注目します。	市史編集専門部会中世部会副会長 成蹊大学文学部教授 池上 裕子 氏

職員の異動

【退職】

平成23年7月31日付

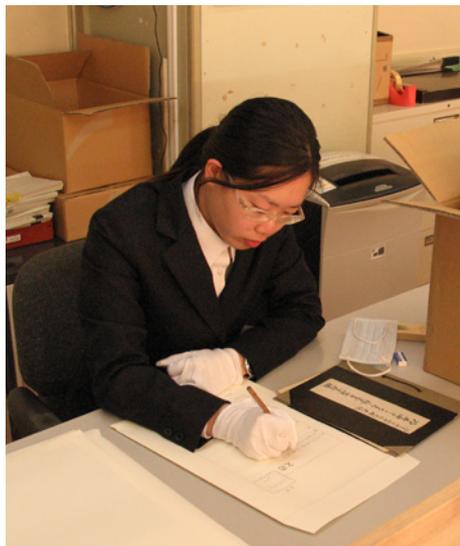
松尾あずさ（市史編さん専門員）

【新規採用】

平成23年9月1日付

春日 祐美（市史編さん専門員）

チャレンジインターンシップ体験記 (平成22年12月9日～10日) 桜美林大学 リベラルアーツ学群3年 世良 知咲



私が今回のインターンシップに応募したきっかけは、行政の仕事への関心から八王子市のホームページを閲覧していたところ、市史編さん室でのインターンシップ募集要項を目にしたことでした。まもなく八王子市制100年という節目を迎えるにあたって、新たに市史編さん室が設けられたということを知り、大変興味を惹かれました。小学生のときから八王子市で暮らしてきた私にとって、10年という限られた期間で行われる市史編さん事業を体験する機会にめぐり合うことができ、非常に幸運だったと思います。

インターンシップ初日は、市史編さん室のある旧稲荷山小学校の校舎内の職員室で、朝礼に参加するところから始まりました。仕事が始まる朝の空気を体感させていただき、身が引き締まりました。そして、市史編さん事業についての講義を受け、八王子市の歴史や車人形などの伝統文化についてもお話を伺いました。市史編さんの目的の一つに、市民が地域に愛着をもつための拠り所としての役割があると教えていただきました。その後、昭和30年代の旧役場文書の目録作成実習を行いました。こうした古い公文書を直接手に取るのは初めてのことで、資料に付いた埃などによって、白い手袋が茶色に変わっていくのを見るにつけ、今までに経験したことのない歴史の重みを感じました。

午後は佐藤室長と専門員の馬場さんにご同伴いただき、絹の道資料館と絹の道の散策に出かけました。午後の暖かい日差しの中、歴史の専門家のお二人にお話を伺いながらの散策は、久しぶりの遠足のような感じでした。八王子市は開発が盛んであり、開発前の発掘調査によって遺跡や出土品が多数発見されているというお話は、私の中の「開発」に対するイメージを変えるものでした。それまでは、開発というと古いものから新しいものへの変化という一方通行の印象があったのですが、古いものを再発見、保護しながら、同時に新しいものを築いていき、現在の八王子市があるのだと思いました。また、歴史研究のおもしろさの一つとして、出土品などを通してその時代、その場所に人びとが生きていた証に触れることができる点があるという言葉が印象深かったです。

インターンシップ二日目は、まず朝礼で一分間スピーチを担当させていただきました。その後、市内の家文書をエクセルでデータ入力する作業と、八王子の動植物などを撮影したフィルムをスキャンしてデジタル化する作業を行いました。家文書には最も古いもので江戸時代の元号のものがあり、フィルムは幅広く八王子の自然を取めたものでした。市民の方からお借りした多くの古文書などの資料が市史編さん室に集められており、くずし字を解読することができる市民の方々の協力のもとに目録が作成されています。この地道な作業によって今後の資料把握がしやすくなるそうです。地域史の編さんは市民の歴史参加の場であると思いました。

今回のインターンシップを通して、何度か皆さんの前で挨拶をする機会をいただいたのですが、自己紹介などの簡単なコミュニケーション能力がまだまだ未熟であることを痛感しました。そんな私の話に耳を傾け、拙い質問にも真摯にお答えくださった市史編さん室の皆さま、本当にありがとうございました。二日間という短い期間ではありましたが、高い専門性をもった職員・専門員・市民の方々が協力して作業にあたるという仕事への姿勢、そして八王子市に関する膨大な資料の整理という地道な作業の結実としての市史編さんについて、私なりにではありますが、非常に学ぶところの多い充実した二日間を過ごすことができました。(せら ちさき)

受贈図書・資料

平成23年4月1日から9月30日まで

多くの方々から、図書や資料をご寄贈いただきました。御芳名を記し、謝意を表します。

【個人など】 縣敏夫 新井勝紘 犬飼康祐 大野聖二 小川義雄 梯弘人 粕谷和夫 加藤憲司
川村文吾 木内基容子 小山祐三 佐藤高樹 澤井榮 神かほり 須田孫七 関口文雄
高橋秀男 高久舞 虎見精一 橋本鋼二 早見恒夫 馬場彩乃 雛倉正人 深澤靖幸
藤田覚 本間岳人 松本行史 宮本八恵子 山崎晴雄 吉沢守 吉邨隆資 渡部恵一
(敬称略・50音順)

【公的機関】 札幌市総務局行政部文化資料室 豊島区立郷土資料館
福生市教育委員会事務局生涯学習推進課文化財係福生市郷土資料室
杏林大学外国語学部紀要刊行担当 町田市立自由民権資料館
小金井市教育委員会生涯学習課文化財係
厚木市教育委員会教育総務部文化財保護課文化財保護係
熊谷市教育委員会社会教育課市史編さん室 小平市企画政策部市史編さん担当
平塚市博物館市史編さん担当 横浜市史資料室
青森県環境生活部県民生活文化課県史編さんグループ 多摩ニュータウン学会
横須賀市総務部総務課市史編さん担当 可児郷土歴史館
大和市文化スポーツ部文化振興課市史・文化財担当 たましん歴史・美術館歴史資料室
仙台市博物館市史編さん室 武蔵野市企画政策室企画調整課歴史資料館開設準備担当
相模原市立博物館市史編さん班 福岡市教育委員会総合図書館文学・文書課資料係
沼津市教育委員会事務局文化振興課市史編さん係 野田市総務部市史編さん担当
茅ヶ崎市文化生涯学習課市史編さん担当 八戸市立図書館市史編纂室
石川町教育委員会町史編纂室 五霞町教育委員会生涯学習グループ
三田市まちづくり部生涯学習支援室生涯学習課市史編さん担当
東京都立南多摩高等学校 館林市教育委員会市史編さんセンター
昭島市教育委員会生涯学習部社会教育課文化財担当 横手市史編さん室
名古屋市市政資料館 大野市史編さん室 能代市総務部総務課市史編さん室

(順不同)

歴史の窓⑧

水と人々の暮らし～絵図から読み解く～

市史編さん専門員 佐藤 千枝

江戸時代の風景画は「新編武蔵風土紀稿」や「武蔵名勝図会」などの地誌によって数多く描かれている。幸いなことに、城跡や著名な神社・寺院、名勝地が多い八王子は、こうした絵図に数多く描かれており、それによって当時の生活の様子を知ることができる。



図① 「五海道其外延絵図 甲州道 巻第2(部分)」
画像提供: 東京国立博物館 リンク先: <http://www.tnm.jp/>

図①は、当時の八王子宿を描いた絵図の一部である。宿場の間を東西に貫く甲州街道の中央に一本の線が描かれているのがわかるだろうか？実は、これは水路である。この水路沿いの宿場の人々の様子を、もっとミクロな目で描いたものに「八王子名勝志」がある(図②、③)。

どちらも街道中央に水路が流れている。図②右上の建物が旅籠「かめや」であるが、その「かめや」の正面に、『かめや 黒沼』と書かれた徳利とその下に酒樽が置かれている(図④)。水路のところどころに板を渡して行き来できるよう暗渠あんきよにしている上に、店の看板代わりに置いているのだろう。

さらに水路の左方向には井戸らしきものが描かれている(図⑤)。幕末に八王子を訪れたシュリーマンは、「道幅二十六メートル、約一マイル〔二キロメートル〕近くもつづく大通りにそって、ところどころに車井戸がある。滑車には一本の綱がかけられて、両側に桶がくりつけられている」*と書き残しているが、まさしくこの絵がシュリーマンの見た車井戸(釣瓶井戸)ではなかろうか。縦掘り井戸の横に柱をたてて滑車を支え、小さな屋根までつけている。所々に設けられたこの井戸で汲み出された水は、宿場の商人や旅人の喉を潤したり、煮炊き・洗濯など生活の様々な場面で活用されたりしたのであろう。また、図②の釣瓶井戸の右上には、2頭の馬を引く人が描かれているが、この人の向かう先には、きっと馬のための水飲み場もあったに違いない。

図⑥では、水路に沿って商いをしている様子が描かれている。水路にまたがっている石灯籠のそばでは、敷物を広げてなにか品物を売っている様子。興味深くしゃがみこんでいる人の姿が見える。その右手にあるのは葎よしずを張った茶屋だろうか。こうした生き生きとした水辺の人々の姿が、絵図には映し出されている。

(さとう ちえ)

*H.シュリーマン(石井和子訳)『シュリーマン旅行記 清国・日本』(講談社学術文庫, 1998年)
(参考文献)八王子市郷土資料館編『特別展図録 八王子宿のうつりかわり』(八王子市教育委員会, 1989年)

